

会長の挨拶 16 職業の本質と職業分類—その3—

商人階級の誕生はその財力の蓄積とともに段々と大きな社会的勢力となり、金融手段の発展や機械文明の発達と、それから歴史上に顕著な武力闘争の繰り返しから、武士階級の弱体化と奴隷の地位の上昇によって封建制社会は段々と崩壊し、イギリスでは17世紀中葉、フランスでは18世紀末、ロシアでは19世紀中葉に瓦解するに到るが、人間の頭脳は過去の思索の蓄積によって操作されるから、どうしても、近代市民社会の構成員の頭脳から封建的上下の階層秩序を中心とする思索を排除することは困難であり、この事実は特に日本及び東南アジア・中近東諸国について言える問題であろう。

このような職業の変遷の過程において特に注意しておかなければならないものとして、中世の僧侶—その知性と奉仕の精神は中世社会の精神的支柱であった—を中心として発展させられた学問の諸分野に従事する職業人と商人を中心とする職業人との二つの区別が中世社会においては厳然として存在したことである。

前者はプロフェッション **profession** なる名称で呼ばれ、その職業自体は神に奉仕することを目的とするものであって、金銭獲得を直接目的とするものではないと考えられたのである。医者・法律家・神学者がこれであって、今日でもこの考え方はこれら三つの専門職業とその延長上にある大学教授その他の職業にも、基本的には行われているのである。我が国でも、この種の職業は専門職業という名で呼ばれている。

他方、後者、すなわち、商人はその業務が直接金銭獲得を目的とするものであるから、中世においては世俗的なもの乃至境地の一段と低いものと考えられ、社会的身分が他の身分よりも低い取り扱いがなされたが、貨幣経済が発達するにつれて、膨大な財産を蓄積し、金融その他を通じて政治的発言力を強め、更には株式制度の発達とともに、経済活動が組織化され、恒久化されるに及んで、更に充実した実力を以て今日の社会全般にわたって君臨するに到ったのである。中世社会が近代社会に変遷する過程で、これらの商人階級は一括して通常の **occupation** として分類されたが、その個別的な名称も商人 **merchant** から企業経営者 **business man** と呼ばれるに到ったのである。この名称の統一性と変化の中に社会の変遷と商人階級の地位の向上の事実を明白に看取することができるのである。

(小堀憲助著『ロータリー思想の理論構造』より引用)